

NEWS LETTER



特別支援学校就労応援団とやまニュースレター・vol.18 令和7年12月発行

1学期は、学校見学会への協力や参加、仕事体験等においてご協力いただきありがとうございました。特別支援学校に在籍する生徒たちのことを地域の方々に知っていただけるように今後も発信していきたいと思います。

●障害者雇用の好事例を紹介します。

○理解のある職場での能力に応じたサポートが労働意欲につながっているケース

コーセル株式会社は、電子機器や電気機械器具の製造・販売を行っている企業です。特別支援学校生徒の就業体験を受け入れており、雇用もしています。企業理念として、差別のない職場づくりや、従業員一人一人の成長を支援する仕組みの整備を掲げています。

Ｔ支援学校の卒業生であるＡさんは、スキルアップの機会の提供や、性格等を考慮した温かい見守りを受けながら、意欲的に働いています。昨年度は、自ら希望して生産技術の研修に参加しました。

Ａさんは、自動車で毎日通勤し、製品の外観検査等を真面目に行っています。難しい研修も自分なりに頑張っていました。おとなしい性格ですが、同僚の中に混じって仲良くやっています。自分から積極的に話し掛けられないことに悩んでいるようですが、少しずつ慣れればよいと思っています。

企業



特別支援学校地域就労支援アドバイザー



企業担当者には、「今後も引き続きサポートをお願いしたい」「何か気になることがあれば学校に連絡してほしい」と伝えました。Ａさんとは、仕事をしていて大変なことや給料の使い方等について話をしました。「これからも研修や仕事を頑張ってください」と声をかけ、励ました。

勤務時間は、８時半からですが、８時頃には会社に着くようにしています。研修中は朝７時頃に家を出なくてはいけないので大変でした。研修は難しかったけれど、頑張りました。給料は、一部を親に渡し、あとはゲームや音楽など自分の好きなことに使っています。会社に話しやすい人がいるので安心です。

Ａさん



●第３回インクルーシブ教育推進フォーラムの開催

NEWS

テーマ：すべての子供が共に学び、共に育つ学校、地域へ
～共生社会の実現のために私たちができること～

今年度は、元ボッチャ日本代表 藤井 友里子 氏をお迎えしてご講演いただきました。講演後は、参加された方々同士の意見交換も行い、それぞれの立場でのインクルーシブ教育について語り合いました。

【講演会】（９０分）

「私とボッチャの出会い～そして、これから～」



講師 元ボッチャ日本代表 藤井 友里子 氏
プロフィール

富山県魚津市出身。生後１０か月で麻疹にかかり、脳性麻痺になる。以前は家に閉じこもっていたが、障害者スポーツ交流会でボッチャを知ってからは「自分にもできるスポーツがあった」とのめり込むようになり、富山でボッチャを始めた。

○開催日時：11月25日（火）13:30～16:10

○会場：富山県民共生センター サンフォルテ

＜参加者の声＞

「自分の好きなことを見つけ、そして、続けていく努力をしていることの素晴らしさを感じた。」

「障害のある人が、仕事でもプライベートでも色々なことにチャレンジできるように、一緒に考えていきたいと思った。」

